

## 授業科目 解剖学 I

【担当教員名】 鈴木 了	対象学年	1	対象学科	言語	
	開講時期	前期	必修選択	必修	
	単位数	2	時間数	30	
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○			
【概要・一般目標：GI0】 解剖学（ST）では、人体の基本的構造を全体的に理解し、特に発声発語器官である口腔・鼻腔・咽頭・喉頭について、及び聴覚器官である外耳・中耳・内耳についてそれぞれの構造と機能を理解する。さらに言語と聴覚に関する中枢神経系と末梢神経系を理解する。また、頭蓋・顔面部の発生の概略を理解し、口腔・顎顔面部の先天異常の発生を考察する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解剖学、形態学とは何かを説明できる。</li> <li>2. 組織を構成する細胞の構成要素の名称と簡単な機能を概説できる。</li> <li>3. 主な骨、骨格筋の名称、位置を説明できる。</li> <li>4. 心臓の位置、各部位の名称を言える。大循環・小循環を説明できる。</li> <li>5. 消化器系、呼吸器系の諸器官、その付属器の名称、位置を説明し、その働きを概説できる。</li> <li>6. 泌尿生殖器系、内分泌系を構成する器官の名称、位置、ホルモンについて説明出来る。</li> <li>7. 中枢神経系、末梢神経系の構成を概説できる。</li> <li>8. 聴覚伝導路をコルチ器から大脳皮質まで順にたどることができる。</li> <li>9. 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭を構成する各部位の名称と機能を説明できる。</li> <li>10. 外耳・中耳・内耳の構造と機能を説明できる。</li> <li>11. 口腔・顎顔面部の発生の概略を理解し、説明できる。</li> <li>12. 摂食・嚥下について解剖学的に説明できる。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	解剖学序論	解剖学とは	組織学総論 細胞と四大組織	1, 2	講義
2	骨格系	骨の構造と種類	骨の連結	3	講義
3	筋系	筋の構造と種類	主な骨格筋	3	講義
4	循環器系	血管とは	心臓 大循環と小循環	4	講義
5	内臓系 - 1	消化器系	呼吸器系	5	講義
6	内臓系 - 2	泌尿生殖器系	内分泌系	6	講義
7	感覚器と神経系	感覚器と神経系のあらし		7	講義
8	神経系 - 1	中枢神経系	伝導路	7, 8	講義
9	神経系 - 2	末梢神経系		7	講義
10	発声発語器官 - 1	口腔、鼻腔、咽頭		9, 12	講義
11	発声発語器官 - 2	喉頭		9, 12	講義
12	平衡聴覚器 - 1	外耳と中耳		10	講義
13	平衡聴覚器 - 2	内耳		10	講義
14	人の発生 - 1	頭頸部、鰓弓の発生		11	講義
15	人の発生 - 2	顎顔面部、平衡聴覚器の発生		11	講義
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	入門人体解剖学 改訂第4版	藤田恒夫	南江堂	2000・5,000円＋税	
参考書	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学	渡辺正仁	廣川書店	2009・5,800円＋税	
	ラングマン人体発生学	Thomas W. Sadler, 安田 峯生 訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2006・8,820円	
	解剖学アトラス	V. W. Kahle, H. Leonhardt, 越智淳三 訳	文光堂	1990・10,500円	
その他の資料	プリントの配布				
【評価方法】	【履修上の留意点】				
出席状況・態度（遅刻、私語、居眠り等）、小テスト、中間テスト、レポート課題、期末試験の総合評価	<p>講義は進行状況等により内容が前後する事があります。</p> <p>短期間で広範囲を勉強します。欠席をせず、必ず予習、復習することが重要です。</p> <p>また参考書は非常に高価です。無理に購入せず、図書館等を有効に活用してください。</p>				